



平成 20 年 5 月 23 日

各 位

上場会社名 日本精密株式会社  
(JASDAQ コード番号 : 7771)  
代表者名 代表取締役社長 岡林 博  
問合わせ先 専務取締役 金 昌明  
(TEL (048)225-5311)

### 特別損失の発生及び平成 20 年 3 月期通期（連結・単独）業績予想の 修正に関するお知らせ

この度、当社において、下記のとおり、特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成 20 年 3 月期（平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）の業績予想について、平成 19 年 11 月 22 日付当社「平成 20 年 3 月期 中間決算短信」及び同日付当社「平成 20 年 3 月期中間（連結・単独）業績予想との差異及び通期（連結・単独）業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

#### 記

##### 1. 特別損失の発生及びその内容

###### (1) 貸倒引当金繰入

子会社ニッセイベトナムの業績をうけて、同社債権に対して貸倒引当金の積み増しを行うことと致しました。(単独 204 百万円)

###### (2) 減損損失

当社及び子会社において、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき減損損失を計上することと致しました。(連結 432 百万円、単独 164 百万円)

###### (3) 投資損失引当金繰入

子会社エヌエスジーの業績から判断し、子会社株式に対し投資損失引当金繰入を行うことと致しました。(単独 5 百万円)

###### (4) 固定資産除却損

子会社村井において、金型・治具工具等の除却を行うことと致しました。(連結 4 百万円)

## 2. 平成 20 年 3 月期連結業績予想の修正等

( 1 ) 通期 ( 平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日 )

( 単位 : 百万円 )

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 ( A )	4,049	0	30	137
今回修正 ( B )	3,980	176	190	735
増減額 ( B - A )	69	177	159	597
増減率 ( % )	1.7%	-	-	-

( 2 ) 修正理由

売上高は、時計バンド事業では、欧州大手高級時計メーカーへの 70 百万円の増加(新モデルの受注好調)と国内大手時計メーカーへの 37 百万円の増加(香港支店での金属バンドの受注増加)、メガネフレーム事業では子会社化した村井での 93 百万円の減少(市場での競争激化)と本社既存メガネ部門での 52 百万円の減少(新製品の立上げ遅れ)、応用品事業では、釣具部品及び静電気除電器関係で 30 百万円の減少があり、これらにより前回修正予想を 69 百万円下回る見込みです。

営業利益は、売上高の減少とベトナム子会社での遊休在庫に対する在庫評価減、ステンレススティール・チタニウム・アルミニウム・金メッキ液等主要仕入原材料費の上昇等と、販売費及び一般管理費の 36 百万円の増加等があり、これらにより前回修正予想を 177 百万円下回る見込みです。

経常利益は、営業利益の減少 177 百万円がありますが、営業外収益増加 12 百万円(本社での金利スワップ評価益 3 百万円と子会社村井での作業屑売却 3 百万円及び受取家賃 2 百万円等)と支払利息の減少 3 百万円があり、これらにより前回修正予想を 159 百万円下回る見込みです。

当期純損失は、特別利益 6 百万円と、上記 1 に記載した特別損失(減損損失 432 百万円、固定資産除却損 4 百万円)、前期損益修正損 6 百万円(子会社化した村井の民事再生前の福井銀行に対する借入利息・延滞利息の確定)等があり、これらにより前回修正予想を 597 百万円下回る見込みです。

( 3 ) ご参考 : 前期の実績 ( 平成 18 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日 )

( 単位 : 百万円 )

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期 ( 4/1 ~ 3/31 )	3,362	105	66	218

## 3. 平成 20 年 3 月期単独業績予想の修正等

( 1 ) 通期 ( 平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日 )

( 単位 : 百万円 )

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 ( A )	2,821	114	55	141
今回修正 ( B )	2,893	154	90	617
増減額 ( B - A )	71	40	34	476
増減率 ( % )	2.5%		-	-

( 2 ) 修正理由

売上高は、時計バンド事業では、欧州大手高級時計メーカーへの 74 百万円の増加

(新モデルの受注好調)と国内大手時計メーカーへの53百万円の増加(香港支店の金属バンドの受注増加)メガネフレーム事業では、49百万円減少(新製品の立上げ遅れ)応用品事業では、静電気除去器関係の減少により7百万円減少し、これらにより、前回修正予想を71百万円上回る見込みです。

営業利益は、販売費及び一般管理費の増加があり、前回修正予想を40千円下回る見込みです。

経常利益は、営業利益の減少がありますが、金利スワップ評価益等営業外収益の増加2百万円と支払利息の減少3百万円があり、前回修正予想を34百万円下回る見込みです。

当期純損失は、特別利益として見込んだベトナム子会社に対する貸倒引当金繰戻64百万円がなくなり、特別損失としては、上記1に記載した特別損失(貸倒引当金繰入204千円、減損損失164百万円、投資損失引当金繰入5百万円)これらにより、前回修正予想を476百万円下回る見込みです。

(3)ご参考：前期の実績(平成18年4月1日~平成19年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期(4/1~3/31)	2,624	92	58	218

以上